

Heart of Tajimi

－ たじみ市民討議会2014 －

実施報告書



2014年11月

たじみ市民討議会 実行委員会

はじめに

この報告書は、多治見市と市民討議会実行委員会が、たじみ市民討議会実施における協定書を結び、『日本一住みやすいまち「たじみ」』をテーマに実施した、「Heart of Tajimi - たじみ市民討議会 2014 -」の結果を集計・分析し、内容を報告するとともに 実施内容を検証したものです。

多治見市において「市民討議会」は2009年に(一社)多治見青年会議所が企画立案し、多治見市との共催で第1回目を開催したのが始まりでした。その後は (一社)多治見青年会議所が中心となり、討議会参加者の有志を募って実行委員会を組織し、市民の「声なき声」を行政に反映させる市民参加の仕組みの礎を整えてきました。そして5年目からは、(一社)多治見青年会議所および多治見市の協力、支援を得て、初めて市民ボランティアが主導する実行委員会を組織して企画運営にあたりました。

6年目となる今年度は市民主導となって2年目ということで、今後の市民討議会の運営を持続可能なものとする上でも重要な年でした。昨年度と同様に市民ボランティア主導で実行委員会を組織し、企画から運営までを市民の手で行いました。

無作為で抽出した20歳以上の多治見市民1,600人を対象に参加依頼書を送付し、34人の参加承諾を得て、当日は32人の市民に参加していただきました。

今回のテーマは『日本一住みやすいまち「たじみ」』を基本コンセプトとして、高齢者の社会参加について考えてみることにしました。昨年度は「子ども」をキーワードとして討議テーマを決定しましたが、少子高齢化がいわれて久しい現在において、少子化対策と同時に高齢者の社会参加促進が喫緊の課題であるとのメンバーの想いが強かったためです。少子高齢化の進展はもはや止めようもありませんが、それは悲観すべき未来ではないはずです。高齢者が増えていくのなら、その方々に生き生きと活動してもらうことを考える。子どもが減っていくのなら、その理由を考えてせめて現状を維持するためにできることを考える。少子化については昨年度の討議テーマとしていますので、今年度は高齢化の方で何かできることを考えたいという想いでした。そして実行委員会での議論を重ねて討議テーマが決まった後で、日本創成会議の公表した「消滅可能性都市」に多治見市が含まれると発表されました。この発表に一喜一憂する必要はありませんが、現状の仕組みのままでは地方行政が破綻する可能性を示したことは大きな意味があることです。行政組織を存続させるためではなく、私たちの暮らしをより良くするためにできることがあるはずだとの想いをより一層強くしました。そこで、中テーマとして

「いま」と「これから」の「たじみ」について考えよう ～少子高齢化時代のまちづくり～

を掲げ、当日出席いただいた参加者の方々に5グループに分かれていただき、より細分化された4つのテーマについて討議し、意見を集約しました。実行委員会ではこれを整理し、提言書としてとりまとめました。そしてこの提言書の内容を市長に直接説明し、手渡しました。参加者の皆さんも少子高齢化について実行委員会と同様の危機感を持っていると感じましたが、討議を通して、ただ恐れるのではなく、目の前の現実を少しずつ変えていくという視点から大変有意義な討議ができました。

この報告書を「市民からの提言」として多治見市に提出するにあたり、提言内容を『市民の声』として市の施策に反映していただくことを願ってやみません。

最後に、『たじみ市民討議会』を開催するにあたり参加していただいた市民の皆様、多治見市長をはじめとする行政関係各位、(一社)多治見青年会議所メンバーの皆様に心よりお礼申し上げます。

たじみ市民討議会 実行委員会一同



討議前の情報提供の様子



討議の様子



討議結果の発表の様子



投票の様子

このあいさつを執筆するにあたり、市民として選ばれ討議会に参加した日からボランティアスタッフとして活動してきた4年間を振り返ってみました。

討議会に参加し、様々な世代・立場の方々とわたしたちの住む多治見について考えたこと、討議会がなければ出会わなかったであろう方々と共に協力し合いながら討議会を作りあげてきたこと、委員長という大役を任せていただいたこと、これらの経験がなければ今の自分はなかったと断言できます。

特に今年は委員長として、討議会でしかできないことを多くの市民に経験してほしい、一人でも多くの市民に多治見のまちのことを自分ごととして捉えてほしい、「住みたいまちは自分たちの手でつくる」という意識を持ってほしいとの思いで駆け抜けた1年でした。

テーマに関しても、20代～60代まで様々な立場のスタッフと昨年の11月から意見を出し合い何度も議論を重ね、情報提供者とも意識を擦り合わせることで世代・立場に拘わらず、より多くの市民が自分ごととして捉え、討議しやすいよう考慮しました。

当日は市民のみなさんの、まちに対する率直な思いを引き出すことには成功したと自負しておりますが、自分たちの手でまちをつくるといった意識の向上面に関しては反省すべき部分もあります。この点に関してはテーマの選定や補助係のやり方に改善を加え、スタッフの目的意識の統一を改めて図ることで改善していきたいと考えております。

時代が変われば人々の意識も変化しますが、時代が変わっても必要とされる「たじみ市民討議会」であるため、今後も前例にこだわらず新たなチャレンジを続けていきます。

最後になりましたが、「たじみ市民討議会2014」スタッフに心から感謝します。ひたすらゴールを見つめ、後ろを振り返ってスタッフの様子をじっくりみることが充分でない委員長でしたが、皆さんの支えのお蔭で最後までやり切ることができました。

(一社)多治見青年会議所、市役所の皆さまにも深く感謝しております。本当にありがとうございます。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

たじみ市民討議会 実行委員長
吉田 有記

第1章 市民討議会について

1-1. 市民討議会とは

これまでも行政は様々な手法で市民の声を聞いてきました。多治見市においても「地区懇談会」や「パブリック・コメント」、また広報紙（広報たじみ）を通じた「市長への提言」などその手法も様々です。これらの手法は市民からの意見を行政側に届ける方法として有効であることは間違いありません。ただ、これらは何か積極的な意見を持った、あるいは直接的な利害を伴った少数の市民の意見に偏るのではないかと、という懸念は常につきまといまいます。高度成長やバブル時代のような社会全体が今よりも豊かであった時代には、これらの手法の問題点はあまり議論されてきませんでした。しかしその後の低成長時代、とりわけ少子高齢化が予想以上のペースで進む現在において、これらの手法では社会全体、より身近なところでは市民生活の向上に対して有効な手段とは言えなくなっていると考えられます。これは社会全体に余裕がなくなり、自分たちの暮らす環境は自分たちで作っていかねばならない状況になってきていることの表れではないでしょうか。

一方で、ドイツにおいて住民自治の手法として実施されているプラーヌクスツェレ（P26参照）という取り組みがあり、これを取り込んだのが日本における市民討議会の始まりです。これは上記の「少数かつ積極的な市民」とは違い「大多数の、けれども声が小さい」市民の意見を行政に反映させる手法としての有効性が評価されたものであり、今では全国各地で同様の取り組みが実施されてきています。実施主体は様々ですが、行政やNPO団体などが主催、あるいは両者の共催で実施されている事例が多いようです。

市民討議会にも様々な形がありますが、参加者は無作為抽出で選ばれ、承諾を得た参加者によりテーマに沿った討議を行い、討議の結果を提言書としてまとめ、これを提言書として提出するとともに広く公開することが一般的な方法です。以下に特徴をまとめます。

～市民討議会の特徴～

1. 参加者の無作為抽出

参加者は住民基本台帳に基づいて、無作為に公平に抽出された市民に「参加依頼書」を送付します。

2. 参加者の有償性

市民の参加意識を高めるため、また責任ある言動をとってもらう動機付けとして報酬を支払います。

3. 専門家による情報提供

討議の前にテーマに沿った情報提供を行います。提供者は専門家や行政など様々です。

4. 討議と意見集約

テーマごとにメンバーを変更しながらグループごとに討議を進め、投票により意見を集約します。

5. 提言書の提出と公表

討議結果を提言書にまとめて行政に提出するとともに、結果を公開します。

1-2. たじみ市民討議会について

(1) たじみ市民討議会の目的

多治見市においては「多治見市市民参加条例」を制定し、「パブリック・コメント」手続きや「地区懇談会」等を通じた意見聴取のほか、広報紙を通して提言を募集するなどの取り組みを行っています。これらから得られる意見は大変貴重なものであり、市政運営の指針として有効であることは間違いありません。ただし市民側からの意見提出という手法ゆえに、得られる意見は少数市民の強い声に偏ってしまうという弊害も否定できません。

そこで、上記の方法では得ることが難しいサイレントマジョリティと呼ばれる「大多数の一般市民」の「声なき声」を行政に届けることを目的として「たじみ市民討議会」を実施するものです。無作為抽出で選ばれた市民の集まる討議会は多治見市民を代表する集団と考えられ、ここで得られた意見はたじみ市民全体の意見であると言えます。こういった取り組みを通して、市民の意見が行政にダイナミックに反映されていく過程をより多くの市民が体験し、その成果を実感することで市民の行政への参画意識が高まることも市民討議会の目的として期待するところです。

より具体的には、6回目となる今回の市民討議会は、『日本一住みやすいまち「たじみ」』の基本コンセプトはそのままに、少子高齢化が進む中でこれからの「たじみ」をどのようにしたいのか、またそれを検討するにあたって「いま」どういった問題がありその問題をどう解決していくのか、といった内容について討議し提言をまとめることを目的として実施するものです。

(2) 実施の概要

平成26年5月14日に「たじみ市民討議会実行委員会」と「多治見市」との間で「Heart of Tajimi -たじみ市民討議会2014-」（以下「たじみ市民討議会」）の実施に関する協定書が締結されました。

平成26年6月21日と22日には、この協定書に基づき、(一社)多治見青年会議所と多治見市の協力のもと、たじみ市民討議会実行委員会主催で「たじみ市民討議会」を実施しました。

そして、ここでの討議結果を実行委員会にて整理し提言書としてまとめ、事前に中間報告会にて参加者の承認を得たのちに、平成26年9月3日に市役所特別会議室において、多治見市長に提言書を提出しました。

(3) 報告書の提出

この報告書は「たじみ市民討議会の実施に関する協定書」に基づき実施した「たじみ市民討議会」について、その経緯や目的を明らかにし、討議内容をまとめた提言書の内容を説明するとともに、持続的な市民討議会の開催のために必要な検証、評価を行うものです。

この報告書は、協定書に基づき多治見市と(一社)多治見青年会議所に提出するものです。

(4) 協定書の締結

たじみ市民討議会は、平成26年5月14日に「たじみ市民討議会実行委員会」と「多治見市」との間で締結された「Heart of Tajimi -たじみ市民討議会2014-」の実施に関する協定書に基づいて実施されました。

この協定書は、たじみ市民討議会2014の実施およびその手法の効果の検証・評価に関し、市民討議会実行委員会と多治見市との間の関係や役割分担、相互協力の内容などを定めるものです。



協定書の締結

(5) 運営組織

たじみ市民討議会を開催するにあたり、以下の通り実行委員会を組織しました。

実行委員長：吉田有記

副委員長：小境邦裕((一社)多治見青年会議所) 河地章

委員：青山千秋 伊藤誠基 井戸勝 奥村絵梨香 小澤全和 梶田朋人
桐山正 高木拓希 竹本幸二 田中友二 古川敦 松永哲一
水野智恵子 吉田企貴 渡辺裕丈

多治見市：柚木崎宏 赤塚俊公 金子知里 松尾彰久



たじみ市民討議会実行委員会メンバー

(6) 活動スケジュール

日程	名称	内容	備考
平成25年 11月 11日	第1回	顔合わせ、自己紹介等	
12月 5日	第2回	概要説明、テーマ討論	
9日	第3回	テーマ討論	
平成26年 1月 30日	第4回	テーマ討論	
2月 10日	第5回	テーマ討論	
28日	第6回	テーマ討論	
3月 10日	第7回	テーマ討論	
25日	第8回	テーマ討論	
4月 14日	第9回	テーマ討論	
21日	第10回	情報提供プレゼン	
5月 9日	第11回	参加依頼書発送準備	
14日	協定書調印式		市役所特別会議室
19日	第12回	情報提供プレゼン	
6月 20日	前日準備	準備・リハーサルほか	産業文化センター 大ホール
21日	市民討議会1日目		
22日	市民討議会2日目		
27日	第13回	反省会ほか	
7月 11日	第14回	討議会まとめ、提言書作成	
25日	第15回	討議会まとめ、提言書作成	
8月 4日	第16回	討議会まとめ、提言書作成	
8日	第17回	討議会まとめ、提言書作成	
22日	第18回	提言書案の確認	
23日	中間報告会		産業文化センター
9月 3日	提言書提出式		市役所特別会議室
22日	第19回	反省会	

今年度は例年に比べて早めにスタートを切り、会議の回数も多くなりました。これはテーマの選定により時間をかけたいという委員の思いが強かったためです。また今回は情報提供に関して余裕を持って準備したいという想いもありました。

半年近い時間をかけてテーマの選定と情報提供の内容に関する会議を重ねました。また事前の準備には例年通り1ヶ月強を要し、討議会当日は大きな問題もなく進めることができました。

(7) 中間報告会の実施

討議会終了後に実行委員会にて結果のとりまとめと提言書の作成を行いました。そして提言書を提出するに先立って、参加者の方に内容の確認をしていただくために中間報告会を実施しました。

(8) 提言書の提出

中間報告会においていただいたご意見をもとに提言書の修正を行い、9月3日に市役所特別会議室において多治見市長に提言書を提出しました。



提言書の提出

1-3. 討議の方法

(1) 討議のテーマ

今年度も例年同様に大テーマ、中テーマを設定し、討議テーマを4つ選定しました。テーマの選定理由については、報告書の「はじめに」にて記載した通りです。

《大テーマ》

日本一住みやすいまち「たじみ」

《中テーマ》

「いま」と「これから」の「たじみ」について考えよう ～少子高齢化時代のまちづくり～

《討議テーマ》

- 1) 高齢者の社会参加をより一層促すために必要なものは？
- 2) 高齢者とともに皆が活躍できる仕組みを考えよう
- 3) これからの多治見のまちづくりに必要なものは何ですか？
- 4) これからの多治見をどんなまちにしたいですか？

(2) 参加者

住民基本台帳をもとに、20歳以上の市民を対象として1,600人を無作為抽出した上で参加依頼書を送付しました。その結果、34人の方から参加の承諾をいただき、討議会当日は32人が参加されました。

(3) 報酬について

参加者には責任ある仕事として取り組んでいただくために報酬を支給しました。討議会終了後に行ったアンケート調査の結果では、報酬の支給について75%の方が肯定的な回答でしたが、金額が責任の大きさに比例すると考える方もいるようで、もう少し少額でもよいのではという意見もありました。

(4) 情報提供について

各討議に先立って、以下の方に情報提供をしていただきました。なお、例年はすべてのテーマについて情報提供を行っていましたが、今回は最終のテーマについて情報提供を行わず、それまでの3テーマを総括するような討議を行っていただきました。

討議テーマ1：「高齢者の社会参加をより一層促すために必要なものは？」

多治見市役所 福祉部 高齢福祉課 三浦和広さん

討議テーマ2：「高齢者とともに皆が活躍できる仕組みを考えよう」

かがやき世代の会・多治見 会長

日本一きれいなまちづくり実行委員会・世話役代表 伊藤敏樹さん

討議テーマ3：「これからの多治見のまちづくりに必要なものは何ですか？」

特定非営利活動法人 Mama's Cafe 代表 山本博子さん

(5) 話し合いのルールについて

討議はA～Eの5つのグループ（6～7人/グループ）で、テーマごとにグループのメンバーを入れ替えて行いました。また各グループに2人の補助係（スタッフ）を配置し、補助係が適宜アドバイスしながら進められました。参加者の自己紹介の後、「進行係」「まとめ係」「発表係」を決めました。

- ・進行係：テーマに沿ってグループ員の発言を促し、討議を進行する。
- ・まとめ係：出された意見をグループ員の合意を得てグループの意見としてまとめる。
- ・発表係：話し合いでまとまった「まとめ」1～3および「残したい意見」を発表する。

そして次のことを約束事として、まとめ係が中心となって話し合いシートに付箋を貼り付けていきました。

- ・全員が発言する。
- ・意見は1件ごとに1枚の付箋に記入して話し合いシートに貼り付ける。
- ・他人の意見を否定しない。
- ・時間を守る。

最後にこれらの意見を整理して「まとめ」を3件以内と「残したい意見」をシートに記入しました。

(6) 討議結果の発表と投票について

討議テーマごとに各グループが発表を行い、共感できる意見（まとめ1～3、残したい意見）に参加者全員で投票を行いました。

投票はテーマごとに一人5枚のシールを貼り付けることで行いました。

第2章 たじみ市民討議会の結果と提言について

討議会において提出された意見（「まとめ」および「残したい意見」）について、それぞれの投票結果をもとに実行委員会において分析を行いました。具体的には、それぞれの意見を特徴的なキーワードで分類し、できるだけすべての意見を反映できるような提言になるよう集約しました。

ここでは、討議テーマごとに意見をまとめた結果と、それに対する提言について整理します。

2-1. 討議テーマ 1：高齢者の社会参加をより一層促すために必要なものは？

(1) 意見のまとめ

「社会参加に対する動機付け」に関する意見（41）

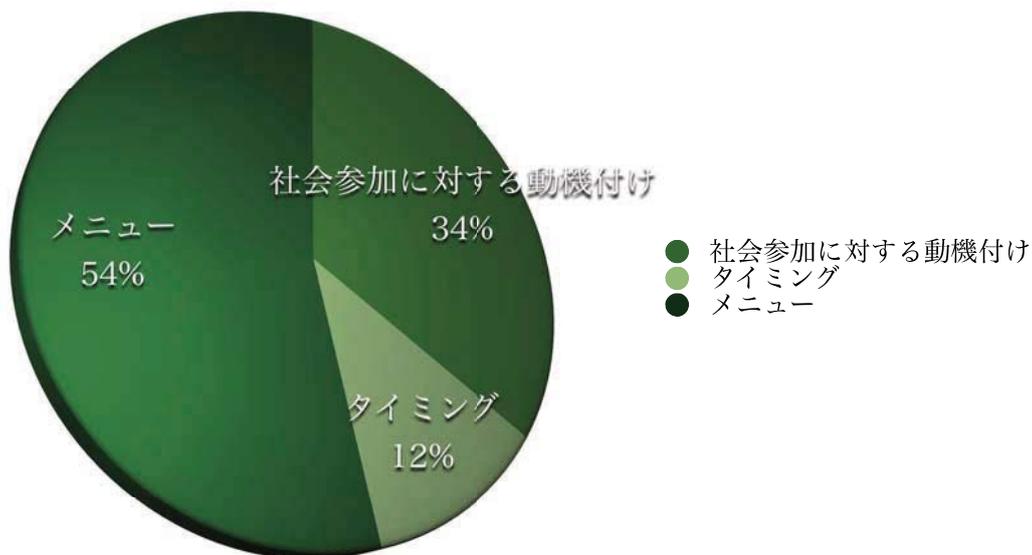
社会参加に対するポイント加算制度の導入(イベント参加やボランティア等)ポイントは、地域マネーとしての活用ができるといい	14
高齢になっても収入を得られる場サービス付高齢者住宅の設置	11
65歳以上の男性は強制的に集める女性より男性の参加率が低いことや、参加する意欲がなかなか出せない男性の特性により強制 引っ込み思案の方には嬉しいかも	8
収入の安定と社会貢献で得る満足度をつくる・仕事コミュニケーションの場をつくる参加のきっかけをつくる・定期的に交流の場をつくる特技を活かせる場をつくる	7
男性の参加率が低い近所の独居者に声をかけにくいお金の心配で参加しにくいかも・嫁に氣遣って思う行動ができにくい	1

「タイミング」に関する意見（14）

案内をかけるタイミング会社定年退職時前期/後期高齢者になるタイミング	14
------------------------------------	----

「メニュー」に関する意見（64）

年齢問わず参加できるような活動の場スポーツクラブ料理教室等	12
ききょうバスの路線の見直しによる、交通手段の確保と無料化やタクシー利用時の補助券	11
イベント一覧を用意(児童向け夢ネットのようなもの)人の集まる場所、スーパーなどに依頼	8
認知症予防の為の脳トレーニング教室の継続的实施	8
収入の安定と社会貢献で得る満足度をつくる・仕事コミュニケーションの場をつくる・参加のきっかけをつくる・定期的に交流の場をつくる・特技を活かせる場をつくる	7
高齢者の話を聞いてくれる話ができる場所と手段とサポートしてくれる人が必要	5
気軽にあつまる場所の提供(公民館、コミュニティカフェの活用)	4
学校等の場で講師などとして活動する定期健康診断に出席させる働き場所現役時代に身に付けた仕事を活かせる場を	3
世代を超えた交流の場をつくる	2
独居高齢者への聞き取り者の提供	2
各地域の町内会活動の充実化(新規イベント)	2



市の担当者から多治見市の高齢化の状況について情報提供していただきました。その後に討議に移りましたが、テーマに「必要なもの」という言葉があることから、メニューに関する意見が多く出されました。ただし個別の意見として最も票を得たのは社会参加に対する動機付けやタイミングに関する意見であり、ただ「～が欲しい」というよりも、社会参加意識を高める仕組みがあれば社会参加が促されるのではないか、という意識が強いことが分かりました。

(2) 討議テーマに対する提言

高齢者（特に男性）の社会参加は、その動機付けが重要であり、参加に踏み出すための後押しをするタイミング及び、メニューの充実が相まって実現すると考えます。

これらを満足するために以下3点を提言いたします。

- ・社会参加を促すための動機付けのひとつとして、社会参加の実績を地域マネーに変換可能なポイントとして計上する制度など、誰もが無理なく日常生活と社会参加を両立できるようなシステムの構築、ひいては自己実現欲を実感できる仕組みづくりを望みます。
- ・社会参加を促進するため、人生の節目（定年退職時・前期／後期高齢者になる時など）に、より行動に移しやすい情報提供になるよう、手法（テレビ・情報誌・インターネット）の見直しを望みます。
- ・既存の活動メニューだけでなく、各自が思い描く活動を募集し、奨励するなど行政の後押しを望みます。

また、上記施策をより効果的にアピールするために、あらゆる可能性を排除せず検討の上、企画・実践することを望みます。

2-2. 討議テーマ 2：高齢者とともに皆が活躍できる仕組みを考えよう

(1) 意見のまとめ

「活動のハードルを下げる仕組み」に関する意見 (32)

交通手段の充実（バスのすべて無料パス・バス乗り場を増やす・高齢者の方同士のおむかえサービス→個人ボランティアの補助（保険、ガソリン代等）	20
市へのお願いとして、小さな公園を作る。（公園の整備、充実：カゲやベンチをつくる）インターネットを活用しての情報提供、情報収集（ネット上の公園：掲示板のような物）	8
職業訓練だとか、職業体験できる場を提供できる場所を作る	4

「人々がつながる仕組み」に関する意見 (50)

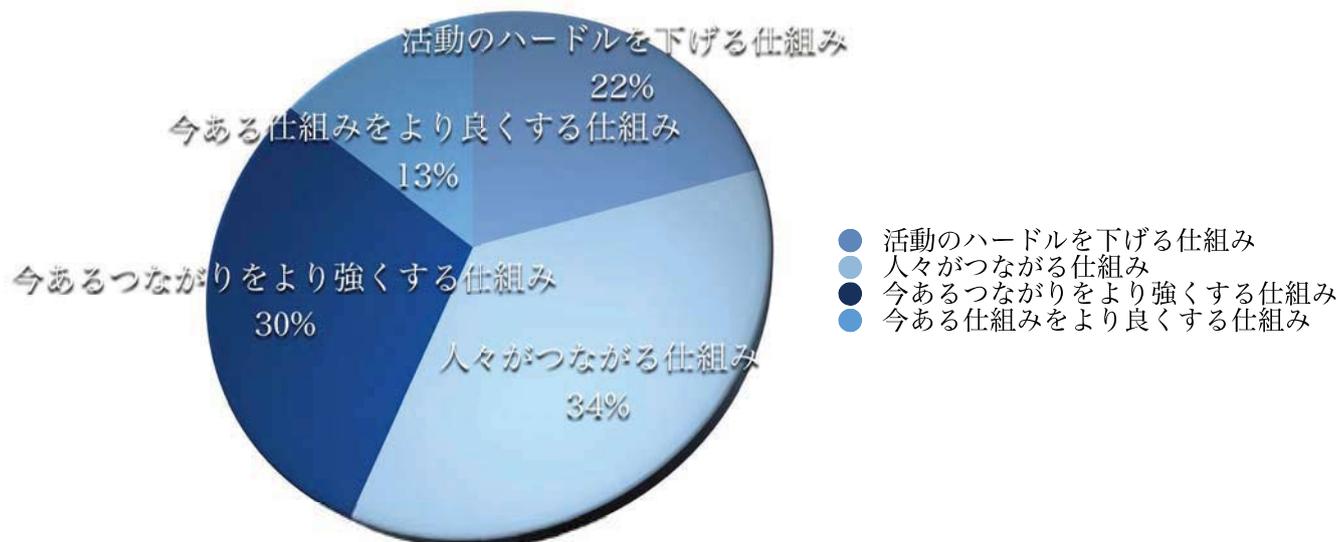
公民館を活用して、ふれあいの場をつくる！（介護情報の提供、子育て談話、昔の思い出話など）	13
料理教室、バザー、家庭菜園を通して、共に活動できる場を作る。	10
コミュニケーション 戦争体験の語り、古来の遊び文化を子供に伝える 子どものものづくり体験、着物の着付けを教える 若い世代からパソコン、スマホの使い方を教えてもらう 世代を越えた料理教室、各団体のコラボレーション	9
学校で職業体験や歴史を談話する。	8
体験者の体験をわかりやすく伝える取り組み	5
文化祭や、運動会など子どもからお年寄りまで参加できる イベント・自分の持っている技術や昔の遊びなどを伝えていきたい	5

「今あるつながりをより強くする仕組み」に関する意見 (44)

既存の組織にはしきいが高く参加しにくいいため、気軽に少人数で参加できる仕組み作り必要	9
活動団体が活動内容を広く公開して初心者が参加しやすくする	9
活動に参加するきっかけを作る（ペットネットワーク・強制参加・男性は奥様が連れ出す）	8
年齢の垣根を外して全世代の参加をうながす（ラジオ体操、あいさつ、清掃など）	6
参加する人のモチベーションをあげるため粗品を提供する（企業協賛など）図書カード、Q U Oカード 試供品など	5
地域の全世代のニーズを捉える、小さなコミュニティで実現していく	4
若いうちから地域とのつながりを作っておく、地域が孤立しないように手をさしのべる、公民館などを地域の活動の中心にする	3

「今ある仕組みをより良くする仕組み」に関する意見 (19)

参加したいイベントがあるときに、行きやすい仕組み作り（交通手段、声かけ、広報）	8
既存の仕組みを伝え、実行し、継続させる取り組み 宅老所、シルバー人材、ききょう大学、他既存の団体。高齢者への声かけ	6
町内会のしくみをもっと知らせる	3
活動内容の周知方法をもっと簡単に・回覧板の規制を下げる。駅やスーパーなどの人の集まる場所に活動情報（イベント予定）をアピールできるように	2



情報提供として、かがやき世代の会多治見の代表である伊藤さんに、「日本一きれいなまちづくり」の取り組みについてお話いただきました。それを受けて、高齢者の活躍を念頭においた多世代交流について討議が行われました。個別には活動のハードルを下げるような仕組みに対する得票が最も多く、参加者が身近で現実的な対策を望んでいることが分かります。一方で全体的には「人々のつながり」を重視した意見が大きな割合を占めることから、新たな仕組み作りを通して社会参加の活性化は可能であるという、参加者の積極的な姿勢があらわれています。

(2) 討議テーマに対する提言

高齢者とともに皆が活躍できるように、多世代交流が可能な場とコンテンツの創出および、社会活動・イベントへ参加しやすくなる仕組みを求めます。

- ・ 高齢者から若い世代に対して子育てに関する情報、昔の遊びや戦争体験などを伝え、若い世代から高齢者に対してパソコン、スマホの使い方を伝えるなど、世代を超えてふれあう、伝え合う場とコンテンツの創出を望みます。
- ・ 活動未経験者が活動しやすいよう、気軽に少人数で参加できる仕組みおよび、既存の団体がより簡単に活動内容を広く公開できるような仕組みを望みます。
- ・ 活動参加に伴う移動などの負担を軽くするために、交通手段の拡充（バス停の増設、高齢者同士のお迎えサービス・ガソリン代の補助）および、個人ボランティアに対する保証（保険）などの充実を望みます。
- ・ イベントへ参加しやすい仕組み（交通手段、声かけ、広報）や既存の仕組み（シルバー人材センター、ききょう大学、他既存団体）をより広く伝え、活用し、より継続が図りやすくなるような仕組みを望みます。

2-3. 討議テーマ 3：これからの多治見のまちづくりに必要なものは何ですか？

(1) 意見のまとめ

「人々の意識を高めること」に関する意見 (33)

街をきれいにするしくみ作り(モラルを育てる)・ゴミ袋を持って花火大会・ゴミ箱の積極的な設置・ゴミ袋の補助(子育て、介護世代)	18
人にじまん出来るものを作る(太陽光を日本一多い街にする、公共施設をすべて太陽光を利用する、こけい山に櫻の木を増やす)	10
まちづくり=人づくり=人との連携,民生委員等 地域の人の輪,この仕組みづくりが必要	5

「人が集まるしかけ」に関する意見 (70)

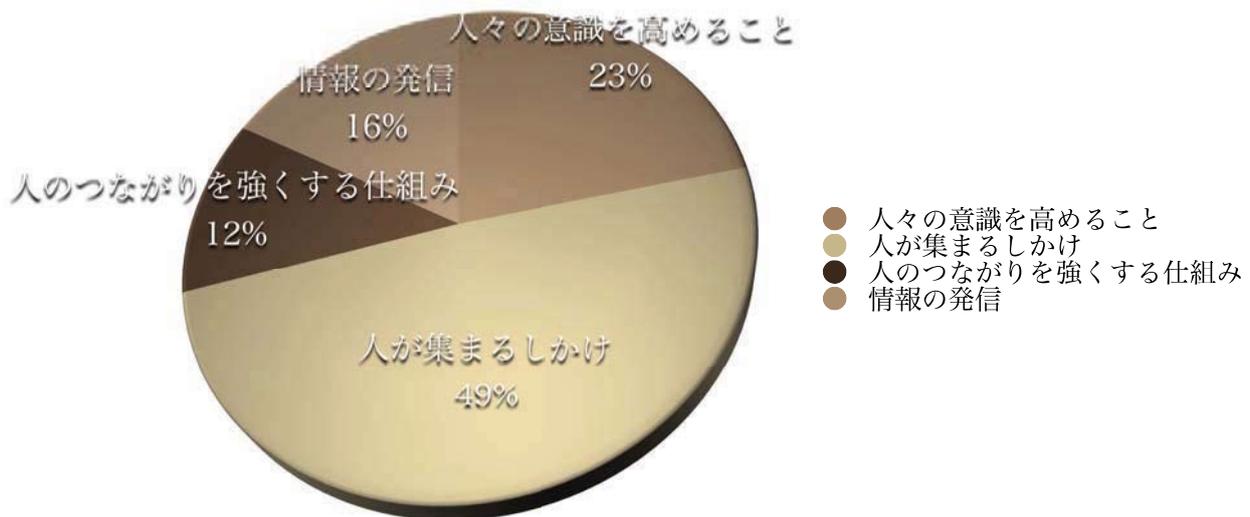
子ども商店街をつくる・駐車場を増やして料金を安くする。	18
市内におけるレジャー施設が欲しい(赤ちゃんからお年寄りまで)(・道の駅・オリベストリートや商店街のコラボ・グルメ開発・映画館やデパート、シネコンがあるといい)	14
シャケプロジェクト(若い人達がこの町に戻ってくる)(例：土岐川を中心に景観のよい町づくり・各地域の自然を利用・企業の誘致 等)	9
大学誘致・シャッターアート	8
人が集まり、情報交換できる場所作り・ワイファイスポット、無料フリースポット・場所作りは多く	7
公園、遊歩道などの運動施設を充実させる	6
交通渋滞の解消するため道幅をひろくする、土岐川に橋を作る、バスの本数を増やす	6
市民主導でやるが、法整備などは市のバックアップ・既存の市の活動の情報公開・市民の声を反映するだけでなくプラスアルファとして企画運営を・既存のハコモノの有効活動・公民管理用の規制緩和	1
地場産業を活性化しつつ、通勤者にもメリットのある、二本柱を進める	1

「人のつながりを強くする仕組み」に関する意見 (17)

高齢者向けのマンションをつくり、1階をテナントにして、働いてもらう・飲み会、食事会、懇親会、地域の人々を知る機会を！・農作業をする人から野菜を買う→(高齢者が)お弁当をつくる→配達(安否確認)・高齢者訪問(民間企業だけど新聞配達。郵便配達)	9
低料金で一時預かりできる保育施設(システム)を作る(子育て世代の支援と高齢者の活用)	4
障害者、高齢者の方がつくったものを民間(コンビニ、スーパー)等で販売してもらう	2
人と人とのつながり(例：近所の声かけ、地域の共同作業)	2

「情報の発信」に関する意見 (23)

魅力ある街作り(いなかと街の両方のよさがあるので住みやすい・観光資源が多い・更にすてきなキャッチコピーを作って内外にアピール(うながっぱ神話)	9
・必要な項目に対し、詳しく内容を聞けるもの(退職後、親の介護…)・高齢者の活動のPR(ジジズ・カフェ、ババズ・カフェ)	9
魅力ある街作りのための情報発信(・ネットを使って全国に発信・掲示板に情報をのせる(リアルなものetc.町内板)・空家の利用)	4
・調べないと知る事ができない、補助など…・市から市民へのわかりやすい情報発信を！！	1



情報提供として、Mama's Cafe代表の山本さんに、子育て支援から始まったカフェ事業が様々な広がりをもって発展していく様子や、活動を通して明らかになってきた問題点などについてお話しいただきました。これを受けて、これからの多治見のまちづくりに必要なものについて討議を行いました。

全体の半数近くを「人が集まれるような施設作り」のようなインフラ整備に関する意見が占めており、目の前の課題としてこれらインフラ整備の不足を感じていることが分かります。ただし個別の意見としてはモラルの醸成や自慢作りといった「意識を高めるもの」に関するものの得票が多く、インフラ整備のみではなく自らの意識作りも大切だという積極的な姿勢がうかがえる結果となっています。

(2) 討議テーマに対する提言

これからの多治見の街づくりについて、人々が自らの意識を高めつつ社会参加が容易にできるよう、以下の通り提言します。

- ・みんなが気軽に集まれる、ひいては多治見に住みたいと思えるような街にするために各種施設（レジャー、シネコン、道の駅など）を整備するとともに大学や企業を誘致することで経済的にも安心できる基盤作りの推進を望みます。
- ・人々の意識を高めることが、多治見の魅力作りにつながっていきます。そこでみんなで街をきれいにする仕組みを通して意識を高めていきたいと考えます。同時に行政側には多治見の自慢になるような政策（太陽光日本一など）を望みます。
- ・多治見には既に様々ないいものがありますがこれらが十分に伝わっていないと思われます。そこで、情報発信の仕組み、方法などを見直しつつ、必要な人に必要な情報が確実に届くような仕組み作りを求めます。
- ・様々な世代の人が安心して暮らすために、高齢者には高齢者向けマンションのような場所、子育て世代には低料金の託児所、といったものを望みます。これらを活用することで人と人のつながりも創出できるようになると良いと思います。

2-4. 討議テーマ 4：これからの多治見をどんなまちにしたいですか？

(1) 意見のまとめ

最後の討議テーマにおいては、情報提供を行わず、これまでの討議をふまえて「これから」の多治見について自由に話し合っていました。意見は多種多様であり、前項までのようなまとめ方が困難であるため、それぞれの意見からキーワードを取り出して、それを総括的にまとめることとしました。

まとめ欄の記述	点数	キーワード			
子供たじみ市民討議会の開催	17	子供討議会			
暮らしの豊かさを実感できるまち全世代が仲良く暮らせる街づくり。一日中いてもあきない1カ所で全ての買い物ができるところを誘致してほしい。(イオンモールなど)高齢者が安心して暮らせる町になってほしい。健康づくり、介護のいらない町づくり。自分の子どもが住みたいと思う町。空家バンク	15	買い物	豊かさ	住みたい	健康
経済的な豊かなまち多治見の陶器を日本中で使ってもらい高級ブランド化を図る。パロー、商店街以外に経済発展できる要素の充実。(工業団地の建設、観光産業の活性化、陶器産業と観光事業のコラボ)	12	ブランド化	産業誘致	観光産業	
欲ばりな街づくり・人口、自然、デパート、ショッピングモール、プール、遊ぶ場所、ずーと多治見人(小学校～大学)	11	買い物	遊ぶ		
交通の利便性を良くする。JRの最終に合わせたバスの運行。	10	交通			
福祉、医療の充実した町・利益性の高い福祉サービス・検診、生活習慣病予防などの予防医療→医療費の削減	9	医療	福祉		
安心、安全な町にしたい・高齢者の(医療的な)予防、保全補助をあつくる・子供のためのパトロール強化、広報活動・防災無線などの小回りのきいた整備・子供のたちによる防災無線を用いた下校時間のお知らせ放送	9	安心安全			
多治見で生産されたものを食し、多治見で作られたエネルギーを利用して生活できるようになってほしい。	9	地産地消			
安全な町・交通安全のために地域の見守りを増やす・道路の整備・外国からの人々も暮らしやすい、静かな町作り	8	安全	暮らしやすさ		
便利な町にしたい・自転車専用道路の整備・多治見までの地下鉄整備・リニア開通に伴い、多治見～中津川間のアクセス向上	8	便利	自転車道	リニア	
東町周辺をジブリの森にしてほしい 自然を残して遊べる場所、プチリゾート	6	ジブリの森	自然	リゾート	
環境の豊かさを感じられるまちきれいな町づくり。発展はある程度必要だが、自然は残してほしい。	5	環境	自然		
アピール、自慢のできるものがある町にしたい・歴史的建造物の有効活用(愛岐トンネル群の拡充)・外国向けのアピールポイント・観光者向けの隅々まで行き届いたサービス・美濃焼フェスティバルの市民全体で共有し盛り上げていく	5	歴史	観光	イベント	
豊かさを感じられる町・日本一暑いだけでなく友達に自慢できる町作り・商店街の有効な活用・自然が大切にされている町作り	5	豊かさ	自慢	商店街	自然
駅周辺→東京立川市、国立市→富山市路面電車 コンパクトシティ・中心地に高齢者用マンション・車がなくても便利に生活できる	5	コンパクトシティ			
周りの自然を活かした多治見の特色を出すイベントを企画して若い人を呼ぶ。	4	自然	イベント		
他市に住んでいる人に自慢できる街・多治見市民が一番幸せな街・非公式キャラの乱立・市民討議会の発展	4	自慢	幸せ	ゆるキャラ	討議会発展
日本の中心であることを活かした物流関連の企業誘致	3	物流			
多くの人が住んでくれる町にしたい。人口増加(起業支援・イベント企画)	2	魅力	起業	イベント	
困った時に優しい行政サービスを受けたい。	2	行政			

これらのキーワードをまとめて、以下の視点から提言をまとめました。なお、交通に関する意見はこれまでの討議のまとめとして提言されていることからここでは取り上げていません。また討議会自体に関する意見については、今後の実行委員会運営の参考にさせていただくこととしました。

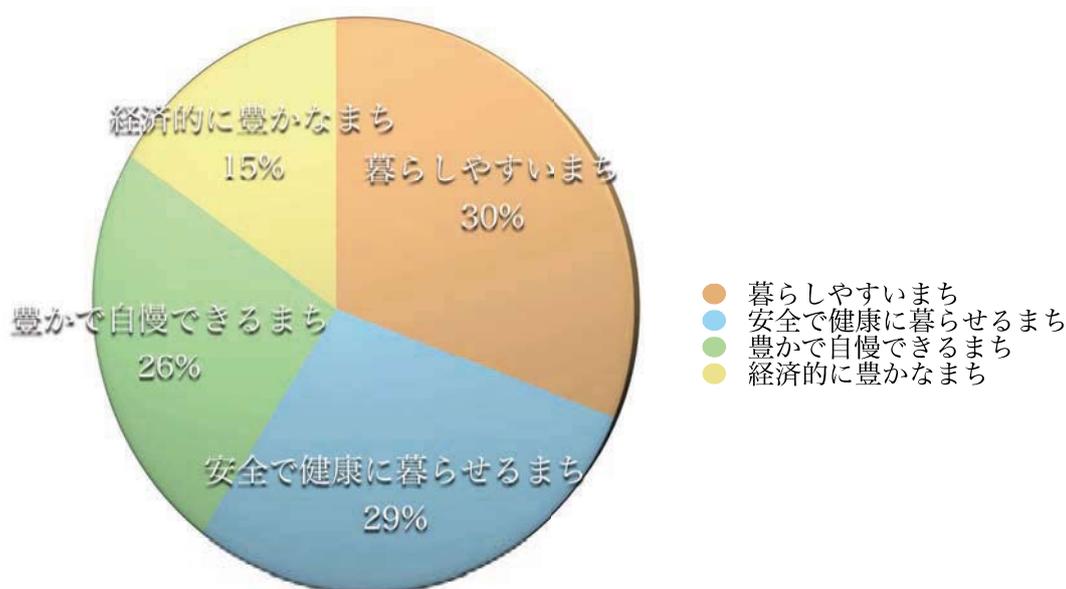
- 「暮らしやすいまち」にするために
 - ・ 便利、豊かさ、買い物といった暮らしやすさに関するキーワードを含む意見

- 「安全で健康に暮らせるまち」にするために
 - ・ 安全、健康、医療、福祉といったキーワードを含む意見

- 「豊かで自慢できるまち」にするために
 - ・ 自然、観光、イベントといったキーワードを含む意見

- 「経済的に豊かなまち」にするために
 - ・ 産業、物流といったキーワードを含む意見

まとめ	点数
暮らしやすいまち	51
安全で健康に暮らせるまち	48
豊かで自慢できるまち	43
経済的に豊かなまち	26



これらの分析結果より、参加者が「こんなまちにしたい」という想いは特定の項目に特化していないことが分かります。これは現在の多治見のまちづくりが平均的なものであり、特に大きな不満もないといえるでしょう。しかし逆に大きな特徴もないということが、参加者の意識としてあるとも考えられます。

今回の討議会の成果としてはキーワードをもとに提言としてまとめますが、今後の市政運営の方向を検討するにあたっては、このような市民の思い、感覚を受けてどのような方向性で多治見を発展させていくのかを再度確認することが必要だと思われます。総花的・平均的な施策を打っていくのか、特定の分野に力を入れていくのか、今回の討議が市政運営の参考になるのではないのでしょうか。

(2) 討議テーマに対する提言

私たちが暮らす多治見をより魅力的なまちにするために、以下のことが必要だと考えます。

- ・暮らしやすいまちにするために、大型ショッピングモールのような便利で楽しい商業施設（商店街の集積など）を望みます。
- ・すべての世代が安心して健康に暮らせるまちにするために、医療の充実（生活習慣病などの予防医療）に取り組むことを望みます。
- ・豊かで自慢できるまちにするために、今ある自然を活かした観光産業やイベントの充実を望みます。
- ・経済的な豊かさも必要です。そのために、地場産業の発展を通じた雇用の創出を望みます。

2-5. 提言書について

二日間の討議を経て得られた意見をもとに、実行委員会において意見集約を行い、提言書をまとめました。この内容については8月23日に中間報告会を開催し、参加者に内容について承諾をいただきました。そして9月3日に多治見市役所特別会議室において、多治見市長にこの提言書を提出しました。市長からは「意見は聞きっぱなしにはしない」というお言葉をいただきましたが、それと同時に「市民にもより積極的に市政運営に参画してほしい」という強い要望をいただきました。

次ページ以降に、提言書を示します。

提言書

「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会2014」に関する提言書

平成26年6月21日、22日に開催されました「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会2014ー」に於いて討議された意見を以下のとおり提言いたします。

大テーマ『日本一住みやすいまち「たじみ」』

中テーマ『「いま」と「これから」の「たじみ」について考えよう

～少子高齢化時代のまちづくり～』

討議テーマ1：高齢者の社会参加をより一層促すために必要なものは？

高齢者（特に男性）の社会参加は、その動機付けが重要であり、参加に踏み出すための後押しをするタイミングおよび、メニューの充実が相まって実現すると考えます。

これらを満足するために以下3点を提言いたします。

- ・社会参加を促すための動機付けのひとつとして、社会参加の実績を地域マネーに変換可能なポイントとして計上する制度など、誰もが無理なく日常生活と社会参加を両立できるようなシステムの構築、ひいては自己実現欲を実感できる仕組みづくりを望みます。
- ・社会参加を促進するため、人生の節目（定年退職時・前期／後期高齢者になる時など）に、より行動に移しやすい情報提供になるよう、手法（テレビ・情報誌・インターネット）の見直しを望みます。
- ・既存の活動メニューだけでなく、各自が思い描く活動を募集し、奨励するなど行政の後押しを望みます。

また、上記施策をより効果的にアピールするために、あらゆる可能性を排除せず検討の上、企画・実践することを望みます。

討議テーマ2：高齢者とともに皆が活躍できる仕組みを考えよう

高齢者とともに皆が活躍できるように、多世代交流が可能な場とコンテンツの創出および、社会活動・イベントへ参加しやすくなる仕組みを求めます。

- ・高齢者から若い世代に対して子育てに関する情報、昔の遊びや戦争体験などを伝え、若い世代から高齢者に対してパソコン、スマホの使い方を伝えるなど、世代を超えてふれあう、伝え合う場とコンテンツの創出を望みます。
- ・活動未経験者が活動しやすいよう、気軽に少人数で参加できる仕組みおよび、既存の団体がより簡単に活動内容を広く公開できるような仕組みを望みます。
- ・活動参加に伴う移動などの負担を軽くするために、交通手段の拡充（バス停の増設、高齢者同士のお迎えサービス・ガソリン代の補助）および、個人ボランティアに対する保証（保険）などの充実を望みます。
- ・イベントへ参加しやすい仕組み（交通手段、声かけ、広報）や既存の仕組み（シルバー人材センター、ききょう大学、他既存団体）をより広く伝え、活用し、より継続が図りやすくなるような仕組みを望みます。

討議テーマ3：これからの多治見のまちづくりに必要なものは何ですか？

これからの多治見の街づくりについて、人々が自らの意識を高めつつ社会参加が容易にできるよう、以下の通り提言します。

- ・みんなが気軽に集まれる、ひいては多治見に住みたいと思えるような街にするために各種施設（レジャー、シネコン、道の駅など）を整備するとともに大学や企業を誘致することで経済的にも安心できる基盤作りの推進を望みます。
- ・人々の意識を高めることが、多治見の魅力作りにつながっていきます。そこでみんなで街をきれいにする仕組みを通して意識を高めていきたいと考えます。同時に行政側には多治見の自慢になるような政策（太陽光日本一など）を望みます。
- ・多治見には既に様々ないいものがありますがこれらが十分に伝わっていないと思われまます。そこで、情報発信の仕組み、方法などを見直しつつ、必要な人に必要な情報が確実に届くような仕組み作りを求めます。
- ・様々な世代の人が安心して暮らすために、高齢者には高齢者向けマンションのような場所、子育て世代には低料金の託児所、といったものを望みます。これらを活用することで人と人のつながりも創出できるようになると良いと思います。

討議テーマ4：これからの多治見をどんなまちにしたいですか？

私たちが暮らす多治見をより魅力的なまちにするために、以下のことが必要だと考えます。

- ・暮らしやすいまちにするために、大型ショッピングモールのような便利で楽しい商業施設（商店街の集積など）を望みます。
- ・すべての世代が安心して健康に暮らせるまちにするために、医療の充実（生活習慣病などの予防医療）に取り組むことを望みます。
- ・豊かで自慢できるまちにするために、今ある自然を活かした観光産業やイベントの充実を望みます。
- ・経済的な豊かさも必要です。そのために、地場産業の発展を通じた雇用の創出を望みます。

平成26年 9月 3日

たじみ市民討議会実行委員会

実行委員長 吉田 有記

第3章 たじみ市民討議会の検証

3-1. たじみ市民討議会の有効性について

たじみ市民討議会は、ドイツで初めて行われたプラーヌクスツェレ（P26参照）という手法を参考に、当初は(一社)多治見青年会議所の主催により開催され、現在ではその運営を市民の手にゆだねる形で開催されています。最近になって各地で同様の討議会が開催されてきていますが、たじみ市民討議会はその運営形態や行政との関係（実行委員会と多治見市との協定締結）といった点を特徴として、これまでも様々な挑戦を行ってきました。これは市民参加に理解のある行政と、それを支え、参画しようという市民の意識レベルの高さがあればこそだといえます。

今回の討議会においても、多数の市民の参加を得て質の高い討議を行うことができました。またそれぞれの参加者がほかの参加者の意見に触れ、さらに高い意識を持つようになるのを目の当たりにし、このような市民参加の手法が大変有効であることを改めて確認しました。討議から得られた提言についても、現在の多治見市の状況をふまえた上での市民の素直な想いを行政に届けることができました。

3-2. たじみ市民討議会の効果のまとめ

たじみ市民討議会の開催を通して、次に示すような効果が明らかとなりました。

(1) 質の高い提言

参加者の活発な討議により、多治見市の現状を市民レベルで捉えた提言ができました。これらは行政に対する要望以外にも、市民の立場でなすべきことが整理され、内容もより具体的で実現を見据えたものとなることができました。

(2) 参加者の高い満足度

討議会終了後に実施したアンケートより、参加者の意識の高まり、高い満足感を確認することができました。参加動機としては「無作為抽出で選ばれたから」といった消極的な意見の割合がもっとも大きかったのに対し、終了後には「参画意識が持てた」「行政に関心を持てた」と答える方が7割近くになり、中には実行委員として運営に興味を示していただける方もいました。これらのことから、討議会に対する満足感が高いことが明らかとなりました。

(3) 参画意識の高まり

参加者アンケートにおいて、このような機会があればまた参加したいとの意見も9割近いものとなり、討議会が市民の参画意識をも高めることが明らかとなりました。

これら以外にも、参加者の評価としてこの「市民討議会」という手法について訪ねたところ、「適している」との回答が8割弱となり、市民にとっても有効な手法であると捉えられているようです。

このように参画意識は高い一方で、この討議会以外で市が主催する討論などに参加したことがあるかを問う設問に対しては、7割近い参加者が「参加したことがない」と回答しています。昨年はこれが9割程度であったことを考えると、実際に参画する割合は増えていますが、より多くの機会があればさらに参加者は増えるものと考えられます。

このように、この討議会は市民の参画意識を高め、実際にその機会を提供するという意味で、大変重要な役割を担っているといえます。今後も継続的に実施されるべきであると考えます。

3-3. 今後の取り組みについて

この市民討議会は提言書を提出して終わりではありません。その提言を市が受け取り、それを市政に反映させ、市民がそれを享受し効果を実感して初めてひとつの区切りになります。このサイクルを確立するための重要な視点として、「市に何かをやってもらう」という意識からの脱却を図る必要があります。「多治見市」という行政組織は私たち市民の代表にすぎません。「多治見市」を正しく動かすためには、私たち市民がしっかり考え、協力しながら行動しなければなりません。市民討議会実行委員会はもちろん、参加者だけではなく市民全員で提言書提出後の経緯を見守り、「自分たちのまちは自分たちでよくする」という意識のもとで、常に関心を持ち続けていきたいものです。

(一社)多治見青年会議所の発案で始まったこの市民討議会も今回で6回目となりました。昨年度からは市民ボランティア主体の実行委員会が運営を行っています。また市民の行政に対する参画意識、社会をよりよくしたいという想いが年々強くなっていることを、実行委員会スタッフ全員が感じています。

市民討議会を継続的に実施する必要があることはすでに述べた通りですが、毎年同じことをしては、めまぐるしく変わる社会状況の変化に対応できません。さらに「たじみ市民討議会」は全国的に見ても市民参加の先進事例でもあります。そこで、今後も運営方法や内容を社会状況に柔軟に対応させながら、市民と行政との協働の架け橋として発展させていきたいと思えます。

終わりに 市民討議会に寄せて

「市民参加」、「市民との協働」が至るところの自治会でいわれている昨今、（一社）多治見青年会議所においても「市民の声を行政へ届ける」といった行政と市民とのパイプ役を担うことは重要な役割であると考えております。

現在、地方自治体や青年会議所は市民の声を施策に活かすため、市民アンケートやタウンミーティングや市民会議などに取り組んでいます。しかしながら、これらに参加する住民は、それぞれの分野に興味をもち、時間的にも比較的余裕のある限られた市民が多いことが想定され、限られた参加者により意見が集約されるのではないかとの懸念もあります。そのため、社会全体の市民、無関心層やサイレントマジョリティー（物言わぬ大衆）といった多くの市民を巻き込んだ真の市民自治による協働のまちづくりをさらに推進していく必要があります。

このような状況の中で、我々はドイツを中心にヨーロッパで広く実施されている市民参加の手法「プラヌクストツェレ」を参考にした市民討議会に着目しました。東京都千代田区で最初に行われ、会社員や学生や主婦等といった市民を無作為に抽出し参加者を募り、討議を行い、その意見を集約し、地域社会や行政に提言するというものです。この新しい市民参加方法によって市民の意識の高揚を図りたいと考えました。

このような経緯で2009年より始まり、本年で6年目を迎えます市民討議会ではありますが、無作為で選定された多くの市民の方々にテーマに基づき話し合っただき、そこでまとめられた意見を、多治見市民の声なき声として行政に届けるという主旨は変わらず開催させていただきました。そして、2013年度に引き続き、無作為抽出で選ばれた市民の皆さんが自主的に参画し活動していく組織に移行していくために、市民主体の実行委員会がテーマ選定、運営に至るまで主導で行い、（一社）多治見青年会議所、多治見市役所が協力するという体制で行わせていただきました。その中で、真の市民主導によるまちづくりに向け、市民の方々が積極的に参画する仕組みができつつあると考えます。

地域社会はその地域住民のものであり、住民の意識と行動が変わらなければ地域は活性化されないと考えます。市民討議会の活動によって行政と市民による協働のまちづくりを推進し、真の地域主権型社会が創られていくことを切に願います。

（一社）多治見青年会議所
次世代育成委員会 委員長 小境邦裕

参考資料 ～プランungskstツェレ（計画細胞）とは～

(独:Planungszelle:プランungskstツェレ(計画細胞)は、独ヴパタール大名譽教授ペーター・C・ディーネル博士により 1970 年代に考案された市民参加の手法です。

ドイツでは1990年の東西統一後、地方公共団体で住民投票制度が導入されたことに伴い、直接民主主義への認識が高まりました。このような背景の中で、市民参加の手法の一つとしてプランungskstツェレが注目されました。

最初に独シュヴェルムにおいて実験的に実施され、それ以降50カ所以上で200回以上開催されています。博士はプランungskstツェレを以下のように定義しています。

無作為抽出で選ばれ、限られた時間・有償性で、日々の労働から解放され、進行役のアシストを受けつつ、事前に与えられた解決可能な計画に関する課題に取り組む市民グループである。

日本では2005年に東京都千代田区で開催され、多治見市では2009年に第1回を開催しました。これは岐阜県内では初の試みでしたが、現在では行政への市民参加に対する効果が広く認知され、日本全国の様々な自治体で実施されるようになっていきます。

実際に行われた内容を踏まえ、簡単にまとめると以下の通りになります。

- 1) 解決が必要な、真剣な課題に対して実施する。
- 2) 参加者は住民基本台帳から無作為で抽出する。
- 3) 有償で一定期間の参加(4日間が標準)。
- 4) 中立的な独立機関が実施機関となり、プログラムを決定する。
- 5) ひとつのプランungskstツェレは原則 25 名で構成し、複数開催する。2名の進行役がつく
- 6) 専門家、利害関係者から情報提供を受ける。
- 7) 毎回メンバーチェンジしながら、約5名の小グループで参加者のみが討議を繰り返す。
- 8) 「市民の意見」という形で報告書を作成し、参加した市民が正式な形で委託者に渡す。

「まちづくりと新しい市民参加」 篠藤明德 著(イマジン出版)より抜粋